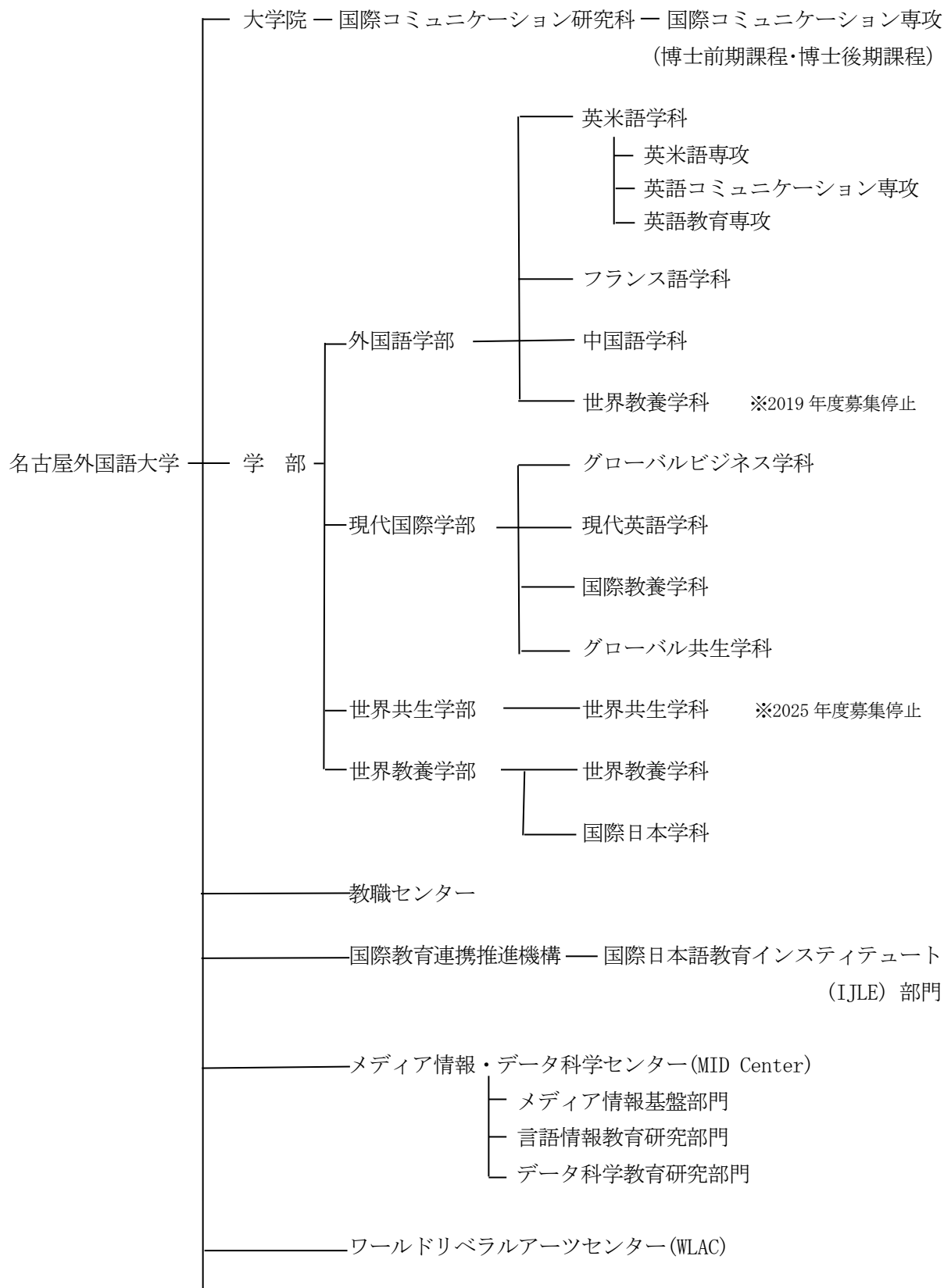


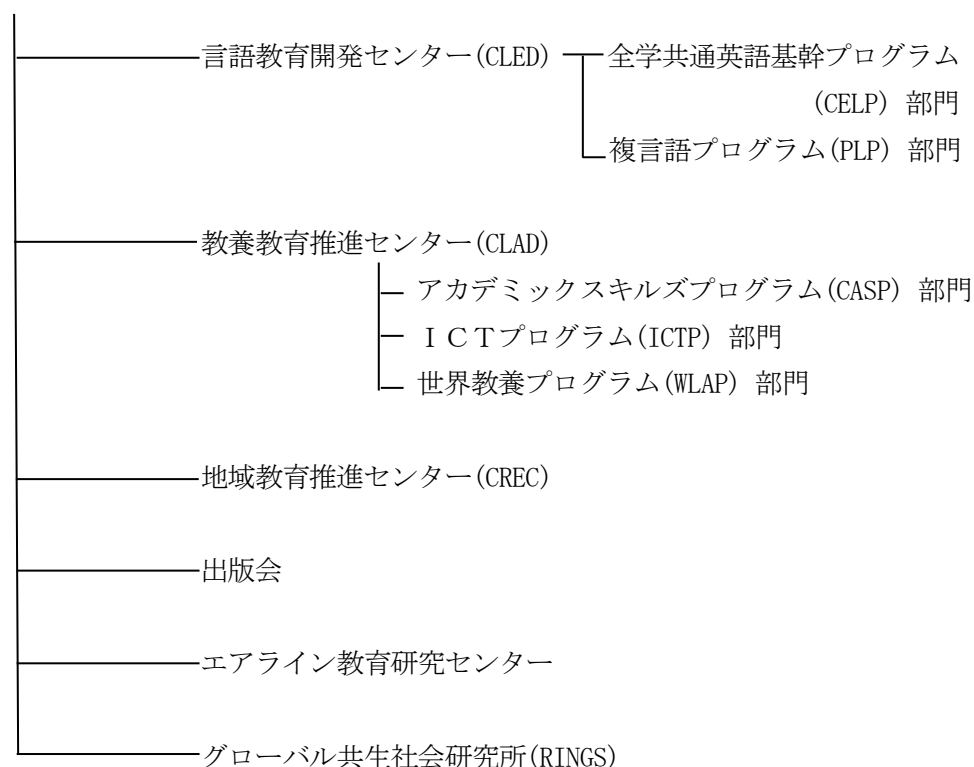
2025年度 名古屋外国語大学の情報公開

I. 教育研究上の基礎的な情報

1. 研究科・学部・学科の名称及び教育研究上の目的

(1) 教育研究組織とその名称





(2) 建学の理念・教育目標

本学の建学の理念は「人間教育と実学」であるが、その目的は時代と社会の要請に応じていく実学を発展させることであり、外国語大学として、「21世紀の地球社会で活躍できる国際感覚豊かな人材を養成する」ことを教育目標としている。具体的な教育指導活動は、一人ひとりの学生を大切にするという基本的な教育理念に基づき、学生の能力の個人差を大切にし、周りの人たちに信頼され、愛される人材を育てることにある。

[大学院国際コミュニケーション研究科]

本研究科は、高等教育機関として一層の研究・教育の高度化を図り、国際化・多様化する社会的要請に応えるために学際的な大学院として設置されたものであり、グローバルなコミュニケーション能力を有し、高度な専門性を実践できる研究者・専門家・職業人を養成し、国際社会において世界規模で貢献し得る有為の人材を育成することを目的とする。

[外国語学部]

① 英米語学科

自分と異なるものも受け入れる心の広さや優しさを持ち、ますます国際化する社会に対応できる知性、教養、倫理を持つ一方で、高度な英語力に基づく豊かでバランスのとれた国際感覚を身につけ、21世紀の世界で活躍できる人材の養成を目的とする。

② フランス語学科

充実したフランス語教育を基盤に、「フランス語・フランス文化」、「フランスビジネス」の各系において専門教育を展開することにより、高度なフランス語力と豊かな国際感覚及び教養を持ち合わせ、国際社会で生きていくことのできる人材の養成を目的とする。

③ 中国語学科

充実した中国語教育を基盤に、「中国語・中国文化」と「中国ビジネス」の2つの系により高度な専門教育を行い、日中間やアジアを軸に現代国際社会において活躍できる人材の養成を目的とする。

④ 世界教養学科

複数の外国語による高いコミュニケーション能力と、主に人文・社会科学の二つの領域にまたがる幅広い教養、また、流動化する現代社会を、個別的かつ俯瞰的な視野から分析できる批判的思考力、さらに一社会人としてあるべき節度と豊かな共感力に溢れた人材の養成を目的とする。

[現代国際学部]

① グローバルビジネス学科

英語をビジネスで活かすことのできる能力とグローバルな経済活動を展開している企業が求めている知識・能力を「マネジメント」、「マーケティング」、「ファイナンス」、「アカウンティング」の系で学び、国際的なセンスを身につけた人材の養成を目的とする。

② 現代英語学科

実践的な英語力を身につけたうえで、専門的知識とその職業領域で活用する応用的英語能力の修得を目指し、総合的な英語力を更に究め、多様なビジネスチャンスにおける英語のプロフェッショナルを育成、特に英語によるコミュニケーションが大切な役割を果たす諸分野を専門的に学び、世界で活躍できる人材の養成を目的とする。

③ 国際教養学科

高度で実践的な英語力に多言語学習を加えた総合的コミュニケーション力の育成に加え、国際教養人としての知識、スキルを修得し、職業分野に沿って「リテラシー」、「ガバナンス」、「リクリエーション」の3つの系に分類された教育課程を通して、将来の自己実現に向けた就業力を一層高めることを目的とする。

④ グローバル共生学科

幅広く豊かな教養を礎に、実践的な言語運用能力・情報分析力・多様性への理解などの地域創生や多文化共生に係る高い専門性と高度な英語運用能力を身につけ、現代社会に関わる鋭利な問題意識・優れた共感能力と国際感覚及び果敢な行動力を備えた国際的職業人の養成を目的とする。

[世界共生学部]

世界共生学科

国内外の多文化環境に速やかに適応できるよう、言語力・コミュニケーション力に優れ、グローバルな社会現象・事象に対する理解力・分析力を持ち、「多文化共生」に対する理解とそれを受け入れる寛容な倫理観や共感力を備えた人材、また、多文化社会が抱える様々な難問やリスクに即応し、今後の世界ならびに我が国の未来を担うチャレンジ精神を備えた即戦力型の人材の養成を目的とする。

[世界教養学部]

① 世界教養学科

世界教養学科は、英語及び複言語の高い運用能力、世界諸地域の言語、文化、歴史、社会などに関する豊かな教養を備え、人文・社会・学際 of 3分野にまたがる幅広い知的好奇心、豊かな人

間性と共感力、批判的思考力、国際感覚を通じて、不確実性に満ちた現代社会がはらむ諸問題の解決に主体的に立ち向かい、世界と地域社会の人々との交流の促進、双方の平和的発展に貢献できる人材の養成を目的とする。

② 国際日本学科

国際日本学科は、日本と世界に関する豊かな教養、日本語および英語の高い運用能力、また、日本語・日本文化に関する専門的知識を備え、同時に、他者に対する共感力、論理的かつ批判的な思考力、さらには地域社会への貢献意識を持った人材の養成を目的とする。

公式サイト：ポリシー参照

2. 教員組織及び専任教員数

2025. 5. 1 現在

研究科・専攻、学部・学科等		教 育 職 員【基幹教員及び基幹教員以外の教員（常勤）】											
		教 授		准教授		講 師		助 教		計		助 手	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻		1								1		1
外国語学部	英米語学科	11	6	6	2	5	1			22	9		6
	フランス語学科	2	2	3			1			5	3		1
	中国語学科	3	3		1	1				4	4		
	計	16	11	9	3	6	2			31	16		7
現代国際学部	グローバルビジネス学科	3	3	4		1				8	3		
	現代英語学科	4	2	1	3					5	5		
	国際教養学科	2	2	4	3					6	5		
	グローバル共生学科	3	1	2						5	1		
	共 通												2
	計	12	8	11	6	1				24	14		2
世界共生学部	世界共生学科	5			1	2	1			7	2		
世界教養学部	世界教養学科	3	2	1	2	2				6	4		1
	国際日本学科		3	3	2					3	5	1	
	計	3	5	4	4	2				9	9	1	1
国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）					2						2		
言語教育開発センター						5	17			5	17		2
教養教育推進センター													1
教職センター（教職課程）		3	1							3	1		
合 計		39	26	24	16	16	20			79	62	1	14
		65		40		36		0		141		15	

※1. 特任教員を含む。

※2. 大学院国際コミュニケーション研究科は学部の教員が兼ねる。

※3. 教養教育推進センターは学部の教員が兼ねる。

※4. 講師には外国語担当専任講師を含む。

3. 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

(1) キャンパスの概要

＜日進キャンパスの所在地＞ 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57番地

＜主な交通手段＞

地下鉄東山線「上社」駅及び地下鉄鶴舞線・名鉄豊田線「赤池」駅の2駅から専用バスを運行。
本学までの所要時間は何れも約15分。

＜名駅キャンパスの所在地＞ 愛知県名古屋市西区則武新町3丁目1番17号 BIZrium 名古屋
6階

＜主な交通手段＞

地下鉄東山線「亀島」駅より徒歩約6分
名鉄名古屋本線「栄生駅」より徒歩約10分
JR「名古屋駅」より徒歩約12分

公式サイト：アクセスマップ参照

＜キャンパスの概要＞

本学が位置する中西学園日進キャンパスには、同学園を母体とする本学と名古屋学芸大学が設置されている。日進キャンパスは、名古屋市東部丘陵地を開発して造成され、この地域には、本学をはじめ、多くの大学が設置されており、日進市の文教地域となっている。キャンパスの校地は、両大学併用であり、面積は153,710㎡である。

本学の校舎は、本館・1号館・2号館・3号館・K館・5号館・6号館・7号館・8号館・東館の10棟と両大学共用の施設である中央図書館、体育館及び厚生施設としてコミュニケーションプラザ、レ・アール（学園ホール）等を有する。校舎面積は、46,327.76㎡（共有部分を按分した本学分の面積を含む）となっている。

教室は、2・3・5・6・7・8号館及びK館と東館にあり、最大398名を収容する大教室をはじめ、大・中・小の講義室が122室、パソコン教室が9室、パワーアップチュートリアル授業専用教室が4室、同時通訳室が1室、会話の訓練専用のスピーキングラボが1室、AVホール1室、語学自習ができるランゲージ・トレーニング・センター1室を設置している。

また、学生の課外活動及び厚生施設としては、次に述べる運動施設の他、コンビニが学内2か所に設置されているのをはじめ、7号館に食堂、コミュニケーションプラザには、書店（丸善）や軽食店（デリバウムハウス）の他、留学生・学生・教職員の交流の場としての交流ホール、ランゲージラウンジを設置している。

さらに、2021年10月に名古屋市西区に名駅キャンパスを開設した。このキャンパスは新型コロナウイルス感染予防対策として日進キャンパスでの開講授業の集中を避け、より快適な学習環境を創出するために整備したもので、学習施設として講義室24室、多目的ラボ1室、ヴラリ（図書・視聴覚資料閲覧室）1室、厚生施設として学生ワークショップルーム1室を擁している。校舎面積は、4,141.41㎡である。

公式サイト：キャンパスマップ参照

<運動施設の概要>

- ・第1グラウンド：主に野球、サッカー、ラクロス等のクラブが使用
- ・体育館アリーナ・サブアリーナ：体育館アリーナはバスケットボール、バレーボール、バドミントン、ハンドボール等のクラブが使用する他、入学式・卒業式・大学祭・球技大会等の大学行事にも使用
サブアリーナは剣道、居合道等武道系クラブが使用
- ・第1多目的ホール：茶道等のクラブが使用する他、吹奏楽、軽音の音楽系クラブ等が使用
- ・テニスコート：竹の山テニスコート（2面）、南山テニスコート（4面、練習ボード半面）
- ・トレーニングルーム：ウェイトトレーニング、エアロバイク等の各種トレーニングマシンを設置
- ・第2グラウンド：タッチフット、サッカー、フットサル等のクラブが使用
- ・第2多目的ホール：主にチアリーディング、よさこい等のクラブ・サークルが使用
- ・第3多目的ホール：ダンスや演劇のクラブが使用

<課外活動の状況>

- ・学生会：クラブやサークル等と協力して、新入生歓迎ウィーク、球技大会、留学生との交流イベント、クラブリーダー研修、禁煙キャンペーン、マナーキャンペーン等多くのイベントを企画・運営している。また、学生会新聞の発行を行っている。
- ・合同祭：本学は姉妹校の名古屋学芸大学と合同で大学祭（合同祭）を行っている。
毎年10月下旬に行われ、キャンパス内は来訪者で溢れ、特設ステージや教室内では学生達によるパフォーマンスが繰り広げられている。合同祭実行委員会の委員は、200名に及んでいる。
（2025年度は10月25・26日に開催予定）
- ・クラブ、サークル：現在大学が公認するクラブ及びサークル団体は、体育会系が25団体、文化会系が16団体となっている。
- ・業界研究グループ：将来の就職を見据えて業界の研究等を行うための、エアライン業界研究グループとマスコミ業界研究グループが課外活動団体として活発に活動している。

4. 授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用

（1）学生納付金に関する情報

① 授業料・入学金・その他の費用

- ・納付期日 1期：4月1日、2期：9月16日 ・納付金額（2025年度入学者）は次のとおり

学部生

（単位：円）

区 分	1 年次			2 年次			3 年次以降		
	1 期	2 期	計	1 期	2 期	計	1 期	2 期	計
入 学 金	200,000		200,000						
授 業 料	382,500	382,500	765,000	382,500	382,500	765,000	387,500	387,500	775,000
教育充実費	190,000	190,000	380,000	190,000	190,000	380,000	190,000	190,000	380,000
演 習 費	25,000	25,000	50,000	25,000	25,000	50,000	25,000	25,000	50,000

区 分	3 年次編入生			4 年次以降		
	1 期	2 期	計	1 期	2 期	計
入 学 金	100,000		100,000			
授 業 料	387,500	387,500	775,000	387,500	387,500	775,000
教育充実費	190,000	190,000	380,000	190,000	190,000	380,000
演 習 費	25,000	25,000	50,000	25,000	25,000	50,000

大学院生

(単位：円)

区 分	前 期 課 程			後 期 課 程		
	1 期	2 期	計	1 期	2 期	計
入 学 金	100,000		100,000	100,000		100,000
授 業 料	382,500	382,500	765,000	382,500 (387,500)	382,500 (387,500)	765,000 (775,000)
教育充実費	95,000	95,000	190,000	95,000	95,000	190,000

※後期課程（ ）の額は3年次の授業料

② 授業料減免制度の概要

A. 減免対象の種類、要件

(2024 年度)

授業料減免制度の名称	種 類	要 件	採用数
緊 急 経 済 支 援 (授 業 料 減 免) 制 度	各期(半期)授業料 1/2 を免除	主たる家計支持者の 失職・倒産等で家計が 急変し、学費の納付が 困難な場合	3 名 〔 各期(半期) 24 名以内 〕
緊急経済支援特別措置 (授 業 料 減 免) 制 度	各期(半期)授業料 1/2 を免除	新型コロナウイルス 禍による経済状況の 悪化により、家計が急 変し、学費の納付が困 難な場合	0 名 〔 各期(半期) 48 名以内 〕
激甚災害被災学生に係 る学費等免除及び見舞 金支給	学費(半期)の全額 又は半額を免除	激甚災害の指定若し くは、指定が予測され る災害により、学費負 担者が被災し、学費の 納付が困難な場合	0 名
私 費 外 国 人 留 学 生 授 業 料 減 免 制 度	学費のうち授業料 の 30%	「留学」の在留資格を 有すること。	13 名

B. 必要手続等

- ・緊急経済支援、緊急経済支援特別措置：申請書に必要書類を貼付して学生課へ提出
- ・激甚災害被災者：事由発生後1年以内に必要書類(各種証明書)を整えて学生課へ提出
- ・私費外国人留学生授業料減免制度：所定の期日迄に授業料減免申請書を国際交流部へ提出

③ 奨学金

(2024 年度)

種 類	要 件	申込方法	採用数
日本学生支援機構 奨学金	日本学生支援機構の定める申請 条件による	日本学生支援機構の定め る手続きにより学生課を 通じて申請	548 名
中西学園奨学金	所定の条件に合致する学生で、家計 支持者の死亡、生別、失職、傷病、災 害等により家計が急変し学費の納付 が困難で、かつ、修学を継続させるこ とが望ましいと認められる学生	学納金納付指定日より 1 ヶ月以内に申請書に必要 書類を添付して学生課へ 提出。ただし、選考委員会 が認めた場合はこの限り ではない	0 名
名古屋外国語大学 同窓会奨学金	本学に在学し、学業や文化、スポーツ 等を学ぶことを目的とし、その活動 を行うにあたって経済的に困難な 学生	申請書に必要書類を添付 して同窓会事務室へ提出	4 名
名古屋外国語大学 成績優秀学生奨学金	学力優秀かつ品行方正な学生	各学科・各学年の優秀成 績学生（4 年生除く）から 所定の委員会で選考	35 名
名古屋外国語大学 育英奨学金	学業優秀かつ経済的支援を要する 学生	該当者から申請書に必要 書類を添付して学生課に 提出。所定の委員会で選 考	20 名
名古屋外国語大学 課外活動・社会貢 献活動等における 優秀学生奨学金	課外活動・社会貢献活動等において 著しく優秀な実績を残した学生	該当する学生から所定の 委員会で選考	0 名
名古屋外国語大学 学生海外留学奨学金	本学の海外留学制度のもと選考を 経た海外留学生	海外留学奨学金申請書に 必要書類を添付して国際 交流部へ提出	271 名
名古屋外国語大学 交換留学生奨学金	交換留学協定に基づき受け入れた 交換留学生のうち優秀な学生	交換留学生奨学金給付申 請書に必要書類を添付し て国際交流部へ提出	285 名
名古屋外国語大学 私費外国人留学生 奨学金	「留学」の在留資格を有した学部 の留学生のうち優秀な者	奨学金願書等の申請書に 必要書類を添付して国際 交流部へ提出	8 名
名古屋外国語大学 大学院奨学金	本大学院の正規の課程に入学した学 生（外国人留学生を除く）で、人物、 学業ともに優れ、かつ健康な学生で、 経済的理由により修学困難な者	申請書に必要書類を添付 して大学院事務室へ提出	2 名

名古屋外国語大学 大学院奨学金 (特別給付)	人物、学業ともに優秀かつ健康で博士後期課程に在学し、特に秀でた学業成果が期待される者	申請書に必要書類を添付して大学院事務室へ提出	3名
名古屋外国語大学 大学院私費外国人 留学生奨学金	本大学院の正規の課程に入学した私費外国人留学生(在留資格「留学」の者)で、人物・学業ともに優れ、かつ健康である者	申請書に必要書類を添付して国際交流部へ提出	4名
名古屋外国語大学 大学院私費外国人 留学生奨学金 (特別給付)	人物、学業ともに優秀かつ健康で博士後期課程に在学し、特に秀でた学業成果が期待される者	申請書に必要書類を添付して大学院事務室へ提出 (大学院で選考)	1名
名古屋外国語大学 大学院学内推薦入 学生奨学金	本大学院博士前期課程に学内推薦入学試験により入学した者	各学期の提出期限までに、申請書を大学院事務室へ提出	8名

5. 校舎等の耐震化率

公式サイト：大学案内→情報公開→耐震化状況参照

6. 寄附行為、役員名簿、役員報酬等

公式サイト：大学案内→情報公開→財務・経営→寄附行為参照

公式サイト：大学案内→情報公開→財務・経営→学校法人中西学園役員→役員一覧参照

公式サイト：大学案内→情報公開→財務・経営→学校法人中西学園役員→役員報酬基準参照

Ⅱ. 修学上の情報等

1. 教員組織、各教員が有する学位及び業績

公式サイト：大学案内→教員紹介参照

2. 入学者の受入れに関する方針、入学者数・収容定員・在学者数・卒業(修了)者数・進学者数・就職者数

(1) 入学者の受入れに関する方針

大 学

本学では、現代のグローバル社会を舞台に活躍できる豊かな個性と強い人間力を備え、研ぎ澄まされた国際感覚を身に付けた人材を育てることを目標にしている。そのため、本学では、真の国際人に求められる高い教養、専門性、高度な外国語運用能力、並びに、多言語・多文化に関わる深い理解及び人間的共感力・国際感覚を涵養するための教育を行っている。

外国語学部

外国語学部では、幅広く豊かな教養を礎に、英語圏・フランス語圏・中国語圏を中心とする地域の言語・文化・社会についての高い専門的知識と高度な外国語運用能力を身に付け、広く多言語・多文化社会への豊かな共感能力と国際感覚に優れた国際的教養人を育成する。

その教育を受けるためには、国際人になるための意欲・関心、外国語を学ぶ強い意志が必要だが、学修の基礎となる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」等の基礎的な能力・資質も必要となる。外国語学部では、英米語学科で英語を主専攻として学び、フランス語学科・中国語学科では英語を副専攻語として学ぶが、英語を主専攻とする学科はもとより、副専攻語とする学科でも、英語力は学びの最も重要な基礎力である。そのため、「英語」は何れの学科の入学試験においても必修科目としている。また、外国語を学修する上でその基礎となる国語力は欠かせないもので、さらに外国語の修得を深化させていくためには、幅広い分野についての基礎学力も大変重要である。

従って、外国語学部の何れの学科においても、専攻する言語は異なる場合があっても、共通の入学試験を採用しており、「英語」の能力が高い者を選抜することを重視しつつ、「国語」等の他教科の基礎学力についても充分配慮して入学者選抜を実施する。

・選抜方法

【一般選抜】

英語・国語を中心とする個別学力検査並びに共通テストの利用、また、その両者を組み合わせることで、教科・科目の学修能力を多面的・総合的に評価する試験

・前期A方式、前期M3方式、前期M2方式、前期共通テストプラス方式、共通テスト利用前期（3教科・5教科）・後期（2教科）、後期の各試験

【学校推薦型選抜】

推薦基準（学習成績の状況＜全体・外国語＞、取得資格等）による出願資格を満たす者を対象とし、調査書（一般公募、指定校）・適性検査（一般公募）・面接（指定校）による選抜

・一般公募、指定校の選抜方式

【総合型選抜・特別選抜】

資格取得、言語・異文化・国際社会への関心、海外での学修歴を有する者等を対象とし、適性検査（複数教科を統合した総合問題を含む）・小論文・面接等を組み合わせ、評価する選抜

・英語等有資格型、国際社会志向型、グローバル・フランス人材志向型（フランス語学科）、アジア事情探究型（中国語学科）、高大接続・体験授業型、海外帰国生徒特別選抜等の選抜方式

次のような人の受験を期待する。

- ・学ぶ意志と意欲を持ち、そのために必要な英語力・国語力等の基礎学力がある人
- ・言葉（外国語・日本語）への強い関心がある人
- ・言葉を通して人への関心、グローバル社会に関心がある人
- ・外国語に関わる言語・文化・社会について高度な知識を身に付けたい人
- ・外国語の高度なコミュニケーション能力を身に付けたい人
- ・異なる文化や価値観に共感し、意思伝達ができる国際感覚を身に付けたい人

学ぼうとする意欲、人への優しさ、社会への参加意識を持って入学して欲しいと思う。

現代国際学部

現代国際学部では、幅広く豊かな教養を礎に、キャリアに関わる高い専門的知識、高度な英語運用能力を身に付け、現代社会に関する先鋭な問題意識と豊かな共感能力、そして鋭利な国際感覚を持った国際的職業人を育成する。

その教育を受けるためには、国際人になるための意欲・関心、そして、その基盤となる外国語を学ぶ意志が必要だが、学修の基礎となる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」等の基礎的な能力・資質も必要となる。現代国際学部では、グローバルビジネス学科・現代英語学科・国際教養学科・グローバル共生学科の何れの学科でも、英語を主専攻として学び、英語力は学びの最も重要な基礎力である。そのため「英語」は何れの学科の入学試験においても必修科目としている。

また、外国語を学修する上でその基礎となる国語力は欠かせないもので、さらに外国語の修得を深化させていくためには、幅広い分野についての基礎学力も大変重要である。従って、現代国際学部の何れの学科においても、共通の入学試験を採用しており、「英語」の能力が高い者を選抜することを重視しつつ、「国語」等の他教科の基礎学力についても充分配慮して入学者選抜を実施する。

・選抜方法

【一般選抜】

英語・国語を中心とする個別学力検査並びに共通テストの利用、また、その両者を組み合わせることで、教科・科目の学修能力を多面的・総合的に評価する試験

・前期A方式、前期M3方式、前期M2方式、前期共通テストプラス方式、共通テスト利用前期（3教科・5教科）・後期（2教科）、後期の各試験

【学校推薦型選抜】

推薦基準（学習成績の状況＜全体・外国語＞、取得資格等）による出願資格を満たす者を対象とし、調査書（一般公募、指定校）・適性検査（一般公募）・面接（指定校）による選抜・一般公募、指定校の選抜方式

【総合型選抜・特別選抜】

資格取得、言語・異文化・国際社会への関心、海外での学修歴を有する者等を対象とし、適性検査（複数教科を統合した総合問題を含む）・小論文・面接等を組み合わせ、評価する選抜

・英語等有資格型、国際社会志向型、専門学科・総合学科卒業生選抜（グローバルビジネス学科）、世界人材志向型（グローバル共生学科）、高大接続・体験授業型、海外帰国生徒特別選抜、外国にルーツを持つ生徒対象特別選抜（グローバル共生学科）等の選抜方式

次のような人の受験を期待する。

- ・学ぶ意志と意欲を持ち、そのために必要な英語力・国語力等の基礎学力がある人
- ・言葉（外国語・日本語）への強い関心がある人
- ・英語を職業に関係付けて学びたい人
- ・各種キャリアに係る高度な教養と英語力を身に付けたい人
- ・各種キャリアに係る高度な知識とスキルを身に付けたい人
- ・多文化共生について学び、共生社会の創造に関わりたい人
- ・高度な英語力とキャリアスキルを統合し、グローバル社会で活躍したい人

学ぼうとする意欲、人への優しさ、社会への参加意識を持って入学して欲しいと思う。

世界教養学部

世界教養学部では、世界と日本の双方に関わる豊かな教養を礎に、世界と日本の言語・文化・歴史・社会に関する高い専門性と高度な言語運用能力を身に付け、鋭利な批判的能力と豊かな共感能力、さらには高いコミュニケーション能力の裏付けを持つ国際感覚を備えたグローバル教養人を育成する。

その教育を受けるためには、国際人になるための意欲・関心、外国語を学ぶ意志が必要だが、学修の基礎となる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」等の基礎的な能力・資質も必要である。世界教養学部では、世界教養学科で英語を主専攻として、国際日本学科で英語を副専攻語として学ぶが、英語を主専攻とする学科はもとより、副専攻語とする学科でも、英語力は学びの最も重要な基礎力である。そのため「英語」は何れの学科の入学試験においても必修科目としている。他方、日本語を主専攻語とする国際日本学科はもとより、世界教養学科においても外国語学修の基礎となる国語力は欠かせないもので、さらに、これらの学修を深化させていくためには、幅広い分野についての基礎学力が大変重要である。従って、世界教養学部を構成する両学科とも、専攻する言語は異なる場合があっても、共通の入学試験を採用しており、「英語」の能力が高い者を選抜することを重視しつつ、「国語」等の他教科の基礎学力についても充分配慮して入学者選抜を実施する。

・選抜方法

【一般選抜】

英語・国語を中心とする個別学力検査並びに共通テストの利用、また、その両者を組み合わせることで、教科・科目の学修能力を多面的・総合的に評価する試験

・前期A方式、前期M3方式、前期M2方式、前期共通テストプラス方式、共通テスト利用前期（3教科・5教科）・後期（2教科）、後期の各試験

【学校推薦型選抜】

推薦基準（学習成績の状況＜全体・外国語＞、取得資格等）による出願資格を満たす者を対象とし、調査書（一般公募、指定校）・適性検査（一般公募）・面接（指定校）による選抜

・一般公募、指定校の選抜方式

【総合型選抜・特別選抜】

資格取得、言語・異文化・国際社会への関心、海外での学修歴を有する者等を対象とし、適性検査（複数教科を統合した総合問題を含む）・小論文・面接等を組み合わせ、評価する選抜

・英語等有資格型、国際社会志向型、世界人材志向型（世界教養学科）、発信コミュニケーション型（国際日本学科）、高大接続・体験授業型、海外帰国生徒特別選抜等の選抜方式

次のような人の受験を期待する。

- ・学ぶ意志と意欲を持ち、そのために必要な英語力・国語力等の基礎学力がある人
- ・言葉（外国語・日本語）への強い関心がある人
- ・言葉を通して人への関心、グローバル社会に関心がある人
- ・日本及び世界諸地域の言語・文化・歴史・社会について豊かな教養を身に付けたい人
- ・日本語及び英語の高度なコミュニケーション能力を身に付けたい人
- ・豊かな人間性、共感能力、国際感覚を身に付け、グローバル社会で活躍したい人

学ぼうとする意欲、人への優しさ、社会への参加意識を持って入学して欲しいと思う。

大学院国際コミュニケーション研究科

国際コミュニケーション研究科では、学園の建学の精神である「人間教育と実学」に立ち、言語を中心に据えて、国際理解に必要な知識・技能を総合的に研究・教授する機関として、研究者養成とともに、現代国際社会で活躍する高度な専門知識を持った職業人の育成を目的としている。

このため、入学者の受け入れについては、本学大学院での学修についての関心、意欲とともに、入学後の学修に必要な資質・能力を有する人を求める。そのための選考方法は、書類審査、本学大学院での研究計画等についての口頭試問を基本として、課程、試験種に応じた選考方法を実施する。

博士前期課程

博士前期課程では、外国語や日本語の運用能力、専門分野の基礎的な知識、研究能力の基礎とともに、研究意欲を持ち、研究者、高度専門職業人を目指し、広い視野に立って研究をとらえて国際社会で貢献しようとする人を求める。

このため、入学者の受け入れについては、本学博士前期課程での学修についての関心、意欲ととも

に、入学後の学修に必要な資質・能力を有する人を求める。そのための選考方法は、書類審査、研究計画等についての口頭試問とともに、試験種によっては外国語、専門科目の筆記試験を実施する。ただし、英語教授法（TESOL）プログラムについては、書類審査とともに、英語による口頭試問、小論文（英文）及び研究計画書に関する試問を行う。

博士後期課程

博士後期課程では、外国語や日本語の高度な運用能力、専門分野の高度な知識とともに、高い目標意識、豊かな研究能力、強い研究意欲を持ち、教育や研究で指導的立場に立ち、世界を相手に活躍できる研究者、高度専門職業人を目指し、研究をととして国際社会で十分に貢献しようとする人を求める。

このため、入学者の受入れについては、本学博士後期課程での学修についての関心、意欲とともに、入学後の学修に必要な資質・能力を有する人を求める。そのための選考方法は、書類審査とともに、研究計画書、修士学位論文等についての口頭試問を実施する。

公式サイト：学部・大学院→大学院国際コミュニケーション研究科→入試情報参照

(2) 入学者数・収容定員・在学者数・卒業（修了）者数・進学者数・就職者数

2025. 5. 1 現在

研究科・学部	専攻課程・学科		入学者数	収容定員	在学者数	修了者数 卒業者数	進学者数	就職者数
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻	博士前期	10	40	31	15	1	11
		博士後期	0	15	9	2	0	2
	計		10	55	40	17	1	13
外国語学部	英 米 語 学 科 英米語専攻 英語コミュニケーション専攻 英語教育専攻		441	1,600	1,669	353	6	311
	フ ラ ン ス 語 学 科		52	250	202	42	1	34
	中 国 語 学 科		50	230	222	63	0	55
	世 界 教 養 学 科 ※2019 年度募集停止			－	2	0	0	0
	計		543	2,080	2,095	458	7	400
現代国際学部	グ ローバルビジネス学科		100	368	399	114	2	99
	現 代 英 語 学 科		98	370	372	99	3	87
	国 際 教 養 学 科		96	370	411	99	2	88
	グ ローバル共生学科		99	85	99			
	計		393	1,193	1,281	312	7	274
世界共生学部	世 界 共 生 学 科 ※2025 年度募集停止			285	293	82	0	67
世界教養学部	世 界 教 養 学 科		101	380	389	106	3	86
	国 際 日 本 学 科		59	220	219	60	1	54
	計		160	600	608	166	4	140
国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）			－	40	129			
合 計			1,106	4,253	4,446	1,030	19	894

(3) 標準修業年限以内で修了した者の占める割合その他学位授与の状況に関すること

博士前期課程 2023 年度入学者（2022 年度秋季入学者含む）（標準修業年限：2 年）

研究科・専攻	入学者数	標準修業年限以内 で修了した者		標準修業年限以内 で退学した者		長期履修学生 a		休学により標準 年限未達の者 b		留年者 (a, b 除く)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション専攻	20	12	60%	0	0%	4	20%	2	10%	2	10%

博士後期課程 2022 年度入学者（標準修業年限：3 年）

研究科・専攻	入学者数	標準修業年限以内 で修了した者		標準修業年限以内 で退学した者		標準修業年限以内 で単位取得後退学 した者		休学により標準 年限未達の者 a		留年者 (a 除く)	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション専攻	2	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	100%

(4) 学位を取得するために要した年数ごとの割合

博士前期課程 2024 年度修了者（標準修業年限：2 年）

研究科・専攻	修了者数	学位を取得するために要した年数 (長期履修及び休学期間含む)				平均年数
		2年以内		3年 (2.5年含む)		
		人数	割合	人数	割合	
国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション専攻	15	12	80%	3	20%	2.1

博士後期課程 2024 年度修了者（標準修業年限：3 年）

研究科・専攻	修了者数	学位を取得するために要した年数（休学期間含む）										平均年数
		3年以内		4年		5年		6年		7年以上		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション専攻	2	0	0%	0	0%	0	0%	1	50%	1	50%	7.5

3. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

公式サイト：学部・大学院→各学部→各学科のカリキュラム及び講義要項シラバス参照

公式サイト：学部・大学院→大学院国際コミュニケーション研究科参照

4. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準

(1) 学修の成果に係る評価

大学院設置基準、大学設置基準等に則し、適切な方法により学修の成果を評価している。

大学院の授業科目の成績は、A+ (100～90点)、A (89～80点)、B (79～70点)、C (69～60点) をそれぞれ合格とし、D (59点以下) を不合格、Sを認定、Wを放棄として評価する。

学部においては、2019年度に新たに評価基準を加え、成績評価を次のとおり定めている。

成 績	点 数	評 価 基 準	合 否
A+	100～90	到達目標を卓越した水準で達成している	合 格
A	89～80	到達目標を優れた水準で達成している	合 格
B	79～70	到達目標を良好な水準で達成している	合 格
C	69～60	到達目標を基本的な水準で達成している	合 格
D	59～ 0	到達目標を達成していない	不合格
E	—	—	試験欠席
F	—	—	失 格
S	—	—	認 定
W	—	—	放 棄

留学生別科の成績は、A+ (100～90点)、A (89～80点)、B (79～70点)、C (69～60点) をそれぞれ合格とし、D (59点以下) を不合格として評価する。この他、S (認定)、W (辞退) で評価する。

(2) 修了・卒業の認定に当たっての基準

(2025 年度入学者)

研究科名 学 部 名	課 程 名 学 科 名	修業 年限	必要修得 単位数	科 目 区 分 毎 の 数		取 得 可 能 な 学 位 及 び 専 攻
				必 修 ・ 必 修 選 択	自由	
国際コミュニケー ション研究科	博士前期課程					
	英語・英語教育コース（英語・英語教育プログラム）	2	3 0	コース共通科目 8 専門教育科目 1 0	1 2	修士（英語・英語教育）
	英語・英語教育コース（英語教授法（TESOL）プログラム）	2	3 0	専門教育科目 3 0		修士（英語・英語教育）
	日本語・日本語教育コース	2	3 0	コース共通科目 8 専門教育科目 1 0	1 2	修士（日本語・日本語教育）
	グローバルコミュニケーションコース	2	3 0	コース共通科目 8 専門教育科目 1 0	1 2	修士（国際文化）
	博士後期課程					
	英語学・英語教育学分野	3	4	特殊講義 4		博士（英語学・英語教育学）
	日本語学・日本語教育学分野	3	4	特殊講義 4		博士（日本語学・日本語教育学）
	グローバルコミュニケーション分野	3	4	特殊講義 4		博士（国際文化）
外 国 語 学部	英 米 語 学 科	4	1 2 4	全学共通基幹科目 4 5 専修科目 6 4	1 5	学士（英語）
	フ ラ ン ス 語 学 科	4	1 2 4	全学共通基幹科目 4 9 専修科目 6 7	8	学士（フランス語）
	中 国 語 学 科	4	1 2 4	全学共通基幹科目 4 9 専修科目 6 7	8	学士（中国語）
現代国際 学部	グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス 学 科	4	1 2 4	全学共通基幹科目 4 4 専修科目 7 4	6	学士（国際経営）
	現 代 英 語 学 科	4	1 2 4	全学共通基幹科目 4 4 専修科目 7 0	1 0	学士（国際学）
	国 際 教 養 学 科	4	1 2 4	全学共通基幹科目 4 4 専修科目 7 4	6	学士（国際学）
	グ ロー バ ル 共 生 学 科	4	1 2 4	全学共通基幹科目 4 0 専修科目 7 2	1 2	学士（グローバル共生）
世界共生 学部	世 界 共 生 学 科	4	1 2 4	全学共通基幹科目 4 1 専修科目 6 6	1 7	学士（世界共生）
世界教養 学部	世 界 教 養 学 科	4	1 2 4	全学共通基幹科目 4 9 専修科目 6 4	1 1	学士（世界教養）
	国 際 日 本 学 科	4	1 2 4	全学共通基幹科目 4 9 専修科目 5 2	2 3	学士（日本語）
留学生別科	日本語・日本文化プログラム	1	3 5	2 5	1 0	——
	名古屋現代日本プログラム	1	3 2	2 4	8	——

5. 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

<学生支援組織>

事 項	組 織 名	機 能
就 職 支 援	学 生 支 援 セ ン タ ー キャリアサポートセンター	・キャリア形成支援、就職相談 ・就職支援及び資格支援講座 ・インターンシップ
進 学 支 援	大 学 院 事 務 室	・大学院進学のアドバイス
履 修 支 援	教 務 部 教 務 課 大 学 院 事 務 室 国際日本語教育インスティテュート	・教科や単位履修の指導 ・成績管理及び各種証明書の発行 ・授業や試験に関すること ・休学・退学等、学籍に関すること
教 職 支 援	教 職 セ ン タ ー	・教職課程に関すること ・教員免許状の申請に関すること
生 活 支 援	学 生 支 援 セ ン タ ー 学 生 課	・学生証、学割、通学証明書の発行 ・クラブや大学祭等の課外活動支援
経 済 支 援		・奨学金に関すること ・授業料の延納・分納に関すること ・経済支援(授業料減免)に関すること
保 健 ・ 衛 生 ・ メンタルヘルス等	保 健 管 理 セ ン タ ー	・健康診断 ・病気や怪我の対応 ・心身の相談 ・学生生活に関する相談
学 習 支 援	メディア情報・データ科学センター TOEIC&TOEFL Study Support 図 書 館	・ICT 活用の推進、及び支援 ・アカウントの管理 ・パソコン教室の管理 ・TOEIC、TOEFL の学内試験の実施 ・TOEIC、TOEFL、IELTS 支援講座の実施 ・学習及び研究活動に必要な学術情報の提供 ・研究成果の発信支援
海 外 留 学 支 援	国 際 交 流 部	・留学相談 ・留学制度の運営全般 ・留学候補者へのガイダンス、各種 手続 ・派遣留学生への支援
受 入 留 学 生 支 援	国 際 交 流 部	・受入留学生へのガイダンス ・受入留学生の宿舍、奨学金、ビザの 案内 ・受入留学生の生活上の支援

公式サイト：就職・キャリア支援参照

公式サイト：学生生活→学生生活サポート→保健管理センター参照

公式サイト：学習支援→メディア情報・データ科学センター参照

公式サイト：図書館・附属機関→図書館参照

6. 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

(1) 大学全体

本学は、豊かな教養と深い専門的能力を培い、「国際社会の一員として人類社会の発展に寄与する人材を育成すること」を目的としており、「真の国際人（心優しいグローバル教養人）」を養成することを教育目標としている。これを実現するために、言語・多文化への共感能力を基礎に持ち、高度な外国語コミュニケーション能力と国際感覚並びに国際対応能力を身に付けることが必要と考える。

(2) 大学院国際コミュニケーション研究科

本研究科は、研究者養成と共に特に現代国際社会で活躍する高度な専門知識を持った職業人の育成を目的としているが、同時に学部として設置されている外国語学部、現代国際学部、世界共生学部及び世界教養学部に通じる大学院として従来型の大学院にないユニークな特色を持つ。他の外国語大学に多く見られるような一つの言語とその背景にある文化の研究を中心とした〇〇語学専攻ではなく、4学部の横断的、総合的、学際的展望を重視して専攻は「国際コミュニケーション専攻」一つとし、自由な履修を可能にする。これはグローバル化が急速に進む世界の現状に対応し得るための基本方針である。

博士前期課程は、本学外国語学部、現代国際学部、世界共生学部及び世界教養学部にまたがる修士課程として設置している。カリキュラムは、学部の学習課程を考慮して、英語・日本語及びグローバルコミュニケーションと広範な分野にわたっているが、研究志向及び就職分野をより明確にすることを意図して、専攻に以下の3コース2プログラムを設け、高い教養と優れたコミュニケーション能力に基づいた学際的で豊かな研究能力を備えた人材育成を目的としている。

- 英語・英語教育コース（英語・英語教育プログラム）
- 英語・英語教育コース（英語教授法（TESOL）プログラム）※現職英語教師対象
- 日本語・日本語教育コース
- グローバルコミュニケーションコース

博士後期課程では、「英語学・英語教育学」、「日本語学・日本語教育学」及び「グローバルコミュニケーション」の3つの専門分野があり、徹底した個別の研究指導を通して高度な専門的職業人、教育者、あるいは研究者の養成を目的としている。本研究科の特色である総合性、学際性を重視し、前期課程で養われた幅広い視野をさらに深めるとともに、各自の専門領域について高度な専門研究能力を身につけ、その知識と能力を実社会に生かすことを目指している。2024年度までに、19名の課程博士、8名の論文博士を輩出した。2012年度までは全てが「日本語学・日本語教育学」分野であり、「英語学・英語教育学」分野及び「国際文化」分野の博士号の誕生を目指していたところ、2013年度以降は「英語学・英語教育学」分野でも課程博士を輩出するようになり、2023年度には「国際文化」分野において初めて課程博士の学位を授与した。また、同じく2023年度において、論文博士として初めて「英語学・英語教育学」の学位を授与した。

また、博士後期課程における円滑な学位授与を促進するために、2011年度から、新たに「博士候補制度」を設置して、論文指導を強化した。現在、博士候補資格取得者は6名である。

公式サイト：学部・大学院→大学院国際コミュニケーション研究科参照

(3) 外国語学部

外国語学部では、国際的教養人の育成を目指し、幅広く豊かな教養を礎に、世界の主地域の言語・文化・社会についての高い専門性と高度な外国語運用能力を身につけ、多言語・多文化への優れた共感能力と鋭利な国際感覚を備えるため、教育課程に「全学共通基幹科目」、「専修科目」、「自由選択科目」、「全学開放科目」を設置している。

幅広く豊かな教養については、「全学共通基幹科目」の「アカデミックスキルズプログラム」と「ICTプログラム」で国際的教養人にふさわしい汎用的能力を育成し、「英語基幹プログラム」、「複言語プログラム」で基幹英語及び専攻言語以外の複言語のコミュニケーション能力を育成するとともに、「世界教養プログラム」で世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する教養を修得する。高い専門性については、「専修科目」の「専門科目群」と「専門ゼミナール」で主に育成し、高度な外国語運用能力は「専攻言語プログラム」を中心にして育成する。

さらに、学生の学力及び学修目標の多様化に対応するために「自由選択科目」を編成するとともに、「全学開放科目」を設置し、他学科、他学部の開講科目も履修可能にしている。これらの科目の履修と国際交流を通して、世界を舞台に活躍できる豊かな個性と人間味に溢れ、共感能力と国際感覚を身に付けるものとする。

公式サイト：学部・大学院→外国語学部各学科参照

(4) 現代国際学部

現代国際学部では、国際的職業人の育成を目指し、幅広く豊かな教養を礎に、キャリアに関わる高い専門性、また高度な英語運用能力を身につけ、現代社会に関わる鋭利な問題意識、優れた共感能力と国際感覚を備えるため、教育課程に「全学共通基幹科目」、「専修科目」、「自由選択科目」、「学部開放科目」、「全学開放科目」を設置している。

幅広く豊かな教養については、「全学共通基幹科目」の「アカデミックスキルズプログラム」と「ICTプログラム」で国際的職業人の基礎にふさわしい汎用的能力を育成し、「英語基幹プログラム」、「複言語プログラム」で英語及び英語以外の複言語のコミュニケーション能力を育成するとともに、「世界教養プログラム」で世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する教養を修得する。高い専門性については、「専修科目」で指導し、「エリアスタディーズ基盤」で世界の地域の文化・社会について知識を深め、各学科の専門科目と「セミナープログラム」でキャリアスキルと専門性を統合的に育成する。高度な英語運用能力は、専修科目の「Basic English」「Step-Up English」などで指導する。

また、学生の学力及び学修目標の多様化に対応するために「自由選択科目」を編成し、「学部開放科目」や「全学開放科目」も履修できるようにしている。これらの科目の履修と国際交流を通して、グローバル時代の社会人として必要な幅広く豊かな教養と高度な英語運用力と高い専門性をキャリアスキルとともに身につけ、共感能力と国際感覚を豊かなものとする。

公式サイト：学部・大学院→現代国際学部各学科参照

(5) 世界共生学部

世界共生学部では、幅広く豊かな教養を礎に、高い専門性、高度な英語運用能力を身につけ、基本的な倫理観、健全な競争心、優れた共感能力を備え、多文化共生時代に国内外で対処を迫

られる課題に対して高い見識と多角的な視野から対応できる人材の育成を目的とする。そのため、①汎用的能力（情報処理力、批判的思考力、判断力・表現力）、外国語運用能力（英語及び英語以外の複言語についてのコミュニケーション能力）、世界教養（世界の言語・文化・政治・経済・自然などに関する知識、能力、態度）を身に付け、②複数のリージョン（地域生活圏）の社会・文化についての学びを通じ、日本及び世界の諸現象を総合的かつリアルに理解し、多様な地域・文化の人々との平和的共生を実現し、かつビジネス等の面においては対等に競いながら、グローバルに活躍するのに十分な知識・技能を備え、③「聞く・話す・読む・書く」の4技能に加え、国際問題を討論する高度なコミュニケーション能力を身につけ、④協調精神（cooperation）や社会貢献の意識（contribution）を強く持った多文化共生社会の担い手となるに十分な共感能力・国際感覚を身に付けるものとする。

公式サイト：学部・大学院→世界共生学部世界共生学科参照

（6）世界教養学部

世界教養学部では、幅広く豊かな教養を礎に、日本及び世界の諸地域の言語・文化・社会に関する高い専門性と高度な言語運用能力を身につけ、日本が抱える社会課題や世界規模の課題に対応できる優れた共感能力と鋭利な国際感覚に裏打ちされたグローバル教養人の育成を目的としている。そのために身に付ける能力として、①日本語及び外国語（英語＋複言語）双方の高い運用能力、日本を含む世界諸地域の言語、文化、社会、歴史等それぞれの地域に固有な価値に関わる理解力、及び日本と世界諸地域の相互関係に関わるグローバルな知見、②人文・社会・学際分野の3分野にまたがる幅広い教養、また、世界の人々からリスペクトされる豊かな人間性、共感力、国際感覚、③地域社会の活性化に貢献し、如何なる状況においても柔軟に対応できる論理的かつ批判的思考力を掲げている。

公式サイト：学部・大学院→世界教養学部各学科参照

Ⅲ. 財務情報

公式サイト：大学案内→情報公開→財務・経営参照

Ⅳ. 教育研究上の情報及び財務情報

1. 教育研究上の情報

(1) 教育条件

① 教員一人当たりの学生数

2025. 5. 1 現在

学 部・学 科 教職課程		教育職員【基幹教員及び基幹教員以外の教員（常勤）】							在 籍 学生数 (B)	専任教員 1人あた りの学生 数 B/A
		教授	准教授	講師	外国語 講師	助教	計 (A)	助手		
外 国 語 学 部	英 米 語 学 科	17	8	6	16		47	6	1,669	35.5
	フ ラ ン ス 語 学 科	4	3	1	2		10	1	202	20.2
	中 国 語 学 科	6	1	1	1		9		222	24.6
	世 界 教 養 学 科								2	—
	計	27	12	8	19		66	7	2,095	31.7
現 代 国 際 学 部	グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス 学 科	6	4	1	1		12		399	33.2
	現 代 英 語 学 科	6	4		1		11		372	33.8
	国 際 教 養 学 科	4	7		1		12		411	34.2
	グ ロー バ ル 共 生 学 科	4	2				6		99	16.5
	共 通							2	—	—
	計	20	17	1	3		41	2	1,281	31.2
世 界 共 生 学 部	世 界 共 生 学 科	5	1	3			9		293	32.5
世 界 教 養 学 部	世 界 教 養 学 科	5	3	2			10	1	389	38.9
	国 際 日 本 学 科	3	5				8	1	219	27.3
	計	8	8	2			18	2	608	33.7
教 職 課 程		4					4		—	—
合 計		64	38	14	22		138	11	4,277	30.9

※1. 教授には特任教授を含む。

※2. 国際日本語教育インスティテュート長は英米語学科に含む。

※3. 国際日本語教育インスティテュート教員2名（准教授2名）は除く。

※4. 教養教育推進センター教員1名（助手1名）は除く。

※5. 言語教育開発センター教員2名（助手2名）は除く。

※6. 大学院教員2名（教授1名・助手1名）は除く。

※7. 現代国際学部グローバル共生学科は2025年度開設のため、学生数は1年次生のみ。

※8. 世界共生学部世界共生学科は2024年度をもって募集停止のため、学生数は2～4年次生の合計。

※9. 世界共生学部世界共生学科は現代国際学部グローバル共生学科兼任教員2名（教授2名）を含む。

② 収容定員充足率

2025. 5. 1 現在

学 部	学 科	入学定員	収容定員	在籍者数	収容定員 充 足 率
外 国 語 学 部	英 米 語 学 科	400	1,600	1,669	1.04
	フ ラ ン ス 語 学 科	50	250	202	0.80
	中 国 語 学 科	50	230	222	0.96
	世 界 教 養 学 科	-	(※1) -	2	-
	計	500	2,080	2,095	1.00
現 代 国 際 学 部	グローバルビジネス学科	85	368	399	1.08
	現 代 英 語 学 科	85	370	372	1.00
	国 際 教 養 学 科	85	370	411	1.11
	グローバル共生学科	85	(※2) 85	99	1.16
	計	340	1,193	1,281	1.07
世 界 共 生 学 部	世 界 共 生 学 科	-	(※3) 285	293	1.02
世 界 教 養 学 部	世 界 教 養 学 科	90	380	389	1.02
	国 際 日 本 学 科	50	220	219	0.99
	計	140	600	608	1.01
合 計		980	4,158	4,277	1.02

※1. 外国語学部世界教養学科は2019年度から募集停止。

※2. 現代国際学部グローバル共生学科は2025年度開設のため、収容定員数は1年次生のみ。

※3. 世界共生学部世界共生学科は2024年度をもって募集停止のため、収容定員数は2～4年次生の合計。

③ 年齢別教員数

2025. 5. 1 現在

職位 年齢	教授		准教授		講師		助教		助手		計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
71 歳以上	3	4. 8									3	2. 0
66 歳～70 歳	15	23. 8									15	9. 8
61 歳～65 歳	18	28. 6	4	10. 2							22	14. 4
56 歳～60 歳	12	19. 0	3	7. 7	2	5. 6					17	11. 1
51 歳～55 歳	10	15. 9	11	28. 2							21	13. 7
46 歳～50 歳	5	7. 9	8	20. 5	7	19. 4					20	13. 1
41 歳～45 歳			9	23. 1	5	13. 9					14	9. 1
36 歳～40 歳			4	10. 3	10	27. 8					14	9. 1
31 歳～35 歳					9	25. 0			2	13. 3	11	7. 3
26 歳～30 歳					3	8. 3			5	33. 3	8	5. 2
21 歳～25 歳									8	53. 4	8	5. 2
合 計	63	100	39	100	36	100			15	100	153	100

※ 1. 副学長（総務・人事企画担当）は除く。

※ 2. 大学院及び国際日本語教育インスティテュートの教員を含む。

※ 3. 教授には特任教授を含む。

※ 4. 講師には外国語担当専任講師を含む。

④職階別教員数

2025. 5. 1 現在

研究科・専攻、学部・学科等		教育職員【基幹教員及び基幹教員以外の教員（常勤）】					
		教授	准教授	講師	助教	助手	計
国際コミュニケーション研究科	国際コミュニケーション専攻	1				1	2
外国語学部	英 米 語 学 科	17	8	6		6	37
	フ ラ ン ス 語 学 科	4	3	1		1	9
	中 国 語 学 科	6	1	1			8
	計	27	12	8		7	54
現代国際学部	グローバルビジネス学科	6	4	1			11
	現 代 英 語 学 科	6	4				10
	国 際 教 養 学 科	4	7				11
	グローバル共生学科	4	2				6
	共 通					2	2
	計	20	17	1		2	40
世界共生学部	世 界 共 生 学 科	5	1	3			9
世界教養学部	世 界 教 養 学 科	5	3	2		1	11
	国 際 日 本 学 科	3	5			1	9
	計	8	8	2		2	20
そ の 他	国際日本語教育インスティテュート		2				2
	言語教育開発センター			22		2	24
	教養教育推進センター					1	1
	教職センター（教職課程）	4					4
	計	4	2	22		3	31
合 計		65	40	36		15	156

※1. 大学院国際コミュニケーション研究科は学部の教員が兼ねる。

※2. 教授には特任教授を含む。

※3. 講師には外国語担当専任講師を含む。

※4. 教養教育推進センターは学部の教員が兼ねる。

⑤基幹教員数

2025. 5. 1 現在

学部・学科		設置基準		基 幹 教 員 数				
		基準数	教授数	教授	准教授	講師	助教	計
外国語学部	英 米 語 学 科	15	8	19	8	6		33
	フ ラ ン ス 語 学 科	6	3	4	3	1		8
	中 国 語 学 科	6	3	5	1	1		7
	計	27	14	28	12	8		48
現代国際学部	グローバルビジネス学科	12	6	7	4	1		12
	現 代 英 語 学 科	8	4	6	4			10
	国 際 教 養 学 科	8	4	4	7			11
	グローバル共生学科	2	1	4	2			6
	計	30	15	21	17	1		39
世界共生学部	世 界 共 生 学 科	9	5	5	1	3		9
世界教養学部	世 界 教 養 学 科	6	3	5	3	2		10
	国 際 日 本 学 科	6	3	5	5			10
	計	12	6	10	8	2		20
大学全体の収容定員に応じ定める基幹教員数		38	19	－	－	－	－	－
合 計		116	59	64	38	14	0	116

※1. 上記基幹教員は専ら当該大学・学部の教育研究に従事する者のみ。

(2) 教育内容

① 非常勤教員の比率 ※学長及び副学長を含む。

常勤34.3%：非常勤65.7%（154名：295名、計449名）

② 学位授与数

1) 修士の学位授与数

研究科・専攻	学位の種類	開設～ 2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	計
国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション専攻	修士（英語教育学）	7					7
	修士（日本語教育学）	50					50
	修士（国際文化）	42	4	2	3	3	54
	修士（英語・英語教育）	73	2	5	4	5	89
	修士（日本語・日本語教育）	97	5	4	4	7	117
	修士（フランス語・フランス語教育）	24					24
	修士（中国語・中国語教育）	7					7
	修士（国際関係）	12					12
	修士（国際ビジネス）	36					36
	修士（インターネット言語教育）	7					7
	修士（多言語多文化マネジメント）	3					3
	修士（公益通訳翻訳）	5					5
合 計		363	11	11	11	15	411

2) 博士の学位授与数

【課程博士】

研究科・専攻	学位の種類	開設～ 2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	計
国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション専攻	博士（英語学・英語教育学）	4	0	0	0	1	5
	博士（日本語学・日本語教育学）	12	0	0	0	1	13
	博士（国際文化）	0	0	0	1	0	1
合 計		16	0	0	1	2	19

【論文博士】

研究科・専攻	学位の種類	開設～ 2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	計
国際コミュニケーション 研究科	博士（英語学・英語教育学）	0	0	0	1	0	1
国際コミュニケーション 専攻	博士（日本語学・日本語教育学）	6	0	0	1	0	7
合 計		6	0	0	2	0	8

3) 学士の学位授与数

学 部	学 科	学位の種類	開設～ 2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	計
外国語学部	英 米 語 学 科	学士（英語）	8,548	272	372	345	353	9,890
	英 語 教 育 学 科	学士（英語教育）	414	41	5			460
	フ ラ ン ス 語 学 科	学士（フランス語）	1,921	55	70	68	42	2,156
	中 国 語 学 科	学士（中国語）	1,732	49	64	48	63	1,956
	日 本 語 学 科	学士（日本語）	1,278	58	1	1		1,338
	世 界 教 養 学 科	学士（世界教養）	282	110	27	5	0	424
	計		14,175	585	539	467	458	16,224
国際経営学部	国 際 経 営 学 科	学士（国際経営）	2,272					2,272
現代国際学部	国際ビジネス学科 グローバルビジネス学科	学士（国際経営）	1,356	79	96	99	114	1,744
	現 代 英 語 学 科	学士（国際学）	1,848	77	94	97	99	2,215
	国 際 教 養 学 科	学士（国際学）	542	93	90	110	99	934
	計		3,746	249	280	306	312	4,893
世界共生学部	世 界 共 生 学 科	学士（世界共生）	70	93	89	85	82	419
世界教養学部	世 界 教 養 学 科	学士（世界教養）			58	98	106	262
	国 際 日 本 学 科	学士（日本語）			49	54	60	163
	計				107	152	166	425
合 計			20,263	927	1,015	1,010	1,018	24,233

③ 就職先の情報

公式サイト：就職・キャリア支援→在学生のみなさまへ→卒業生の業種別就職割合参照

(3) 学生の状況

① 入学者の推移

・学 部

学 部	学 科	入 学 者 数				
		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
外国語学部	英 米 語 学 科	368	357	379	410	441
	フ ラ ン ス 語 学 科	47	48	43	45	52
	中 国 語 学 科	74	51	57	48	50
	計	489	456	479	503	543
現代国際学部	グローバルビジネス学科	109	98	89	91	100
	現 代 英 語 学 科	102	77	76	88	98
	国 際 教 養 学 科	98	93	93	105	96
	グ ロ ー バ ル 共 生 学 科	-	-	-	-	99
	計	309	268	258	284	393
世界共生学部	世 界 共 生 学 科	78	76	97	84	-
世界教養学部	世 界 教 養 学 科	102	87	80	99	101
	国 際 日 本 学 科	60	48	49	48	59
	計	162	135	129	147	160
合 計		1,038	935	963	1,018	1096

・大 学 院

研究科・専攻	課 程	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
国際コミュニケーション	博士前期課程	13	11	20	10	10
	博士後期課程	2	2	1	0	0

② 社会人学生数

学部生においては、社会人特別選抜入試は実施していない。

大学院生については次のとおり。

研究科・専攻	課 程	在学者数	社会人学生数	%
国際コミュニケーション	博士前期課程	31	15	48.4
	博士後期課程	9	8	88.9

③ 留学生数及び海外派遣学生数

新型コロナウイルス感染症の5類への分類変更等を受けて、留学の受入れ・派遣ともに障害はなくなっており、より活発な国際交流が行われるようになっている。2024年度における本学の国際交流は留学派遣数、留学受入数ともに完全にコロナ禍以前の姿を取り戻している。

公式サイト：留学・国際交流→国際交流実績参照

(4) 国際交流・社会貢献等の概要

① 国際交流（協定相手校等）

公式サイト：留学・国際交流参照

② 社会貢献活動

1) 公開講座の開講

本学の活動内容を広く一般市民に周知し、また、教育研究活動を通して得た成果を地域社会に還元するための方途として、公開講座を開講している。

本学ではワールドリベラルアーツセンターや学科主催による講演会を定期的実施しており、一般市民にも広く開放し、毎回、かなりの数の参加者を得ている。講座の内容は、広く世界の諸地域の文化や歴史等に及んでおり、外国語大学ならではの独自の講座として一定の成果を挙げている。

また、名駅キャンパスでは、2022年4月から「12の教養、12の言語」をキャッチフレーズに社会人・大学生・高校生・本学卒業生・在学生を対象にした「名古屋外国語大学オープンカレッジ（公開講座）」を春期、秋期及び冬期(短期)に開講している。

2) 英語教員ワークショップの開催

本学では、愛知・岐阜・三重・静岡・長野県の中学校及び高等学校の現職英語教員を対象とした実践的な指導方法、指導能力の向上と英語能力のスキルアップを目的に2001年度から「英語教員ワークショップ」を開催しており、この間延べ7,300名を超える者の受講があった。

なお、2024年度では、延べ368名（実人数99名）であった。

公式サイト：大学案内→地域連携・公開講座→英語教員ワークショップ NUFs Workshop 参照

3) 地域の国際交流

本学では、留学生との交流は本学在学生に限らず、地域住民とも積極的に行ってきた。コロナ禍により、2020年度以降留学生の来日が途絶えていたため、一時的に地域との国際交流も実施できなかったが、2022年度春季より、留学生の受入れも再開しており、ホームステイ、ホームビジット、その他の地域との交流プログラムに留学生が参加するなど、地域との交流も積極的に進めている。

③ 大学間連携

1) 東京外国語大学との教育・研究等交流協定

2013年度に東京外国語大学との間で教育・研究等交流協定を締結した。世界を舞台に活躍できるグローバル人材の育成を目的に、双方の大学で開講する科目の単位互換、合同授業、海外提携校への留学支援、就職活動施設の活用等をその事業として掲げ、2015年度から毎年度、2乃至3名を1年間の国内留学生として派遣している。

2) 愛知県立芸術大学との包括協定

2018年度に愛知県立芸術大学との間で教育・研究活動の連携・協力の推進によって、両大

学の教育・研究の一層の発展に資することを目的として包括協定を締結した。学術研究、学生交流、教職員交流の他、施設設備の活用について連携を図っていく。

その一環として、愛知県立芸術大学院生によるランチタイムピアノコンサートを企画し、学内施設にて開催している。

3) 愛知学長懇話会による単位互換

2002年度から、愛知県下の大学が参加する「愛知学長懇話会による単位互換制度」が発足し、本学もこれに参加している。本学の学生が他大学の授業を受講する場合の資格は、2年次生以上で、每期3科目6単位以内としており、本学の卒業要件となる単位として最大12単位まで認定している。

2020年度から2024年度の履修申込みを含めた実績は、次のとおりである。

・本学学生の他大学授業科目受講

2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
1 期	2 期	1 期	2 期	1 期	2 期	1 期	2 期	1 期	2 期
0 大学 0 名	0 大学 0 名	1 大学 1 名	2 大学 2 名	1 大学 1 名	4 大学 4 名	6 大学 4 名	1 大学 1 名	2 大学 2 名	0 大学 0 名

・他大学学生の本学授業科目受講

2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
1 期	2 期	1 期	2 期	1 期	2 期	1 期	2 期	1 期	2 期
0 大学 0 名	0 大学 0 名	1 大学 1 名	1 大学 1 名	3 大学 3 名	3 大学 3 名	1 大学 1 名	1 大学 1 名	0 大学 0 名	1 大学 1 名

4) 全国外大学長会議

1997年度から、全国の7外国語大学（東京外国語大学、神田外語大学、京都外国語大学、関西外国語大学、神戸市外国語大学、長崎外国語大学、本学）で学長会議を年1回輪番で開催しており、懸案事項等に対する対処方策・情報交換・外国語大学の役割・在り方等について議論・検討を行っている。2024年度で28回目となり、外国語大学間の連帯感等も醸成されてきており、毎回有意義な会議となっている。

また、この7大学による「全国外大連合憲章」を2014年6月に締結し、教育交流や研究交流を通して、それぞれの教育水準をさらに向上させることで、未来に貢献できるグローバル人材の輩出を目指している。

④ 地域連携

2008年度から日進市及び長久手市（当時長久手町）と市内の小・中学校において、学校教育の現状を知り、児童生徒との交流を通じて必要とされる支援を行うことで教職に対する理解を深め、教師の仕事と教職の意義を学ぶことにより、資質及び意識の向上を図り、教職への志望の確認強化を目的とした取組みを行っている。

2009年度、日進市と本学及び名古屋学芸大学との連携協定が調印され、市の国際交流事業活性化に対する支援、市が主催する教育・文化活動への教員・学生の派遣の他、地元小・中学校からの要請に基づく小・中学生の英語教育等の充実にも協力している。

さらに、愛知県と多文化共生社会づくりに連携して取り組む協定を締結した。人材育成を共同で推進するため、本学では災害時の通訳ボランティアの育成や多文化共生に関する県民向けの公開講座等の実施、日本語教育の推進等に協力している。

2017年度、岐阜県中津川市との間で、地域社会の発展・人材育成及び学術の振興に寄与することを目的として包括協定を締結した。観光と地域創生の面で学ぶ機会を得る一方、同市の発展に貢献することを目的としている。今後の具体的な取組みは、世界共生学部世界共生学科及び現代国際学部グローバル共生学科の「地域創生科目」のフィールドとして、学生が地域の具体的な課題を発見し、グループでその解決策を考える問題解決型授業（アクティブラーニング）の実践や同市へのインバウンド観光客のサポート活動に取り組んでいる。

2021年度、長野県南木曽町と教育研究や地域・産業振興、まちづくり等に関する包括連携協定を締結した。南木曽町と更なる友好関係を深め、地域の課題に適切に対応し、地域社会の発展に寄与することを目指しており、これまでの活動内容としては、地元団体の協力を得ながら外国人観光客へのアンケートの実施やまちづくりへの提言等の支援を行っている。

⑤ 高大連携

2011年度、県内大学と愛知県教育委員会が連携し、大学と初等・中等教育学校との情報交換を行う「連携推進会議」を設置し、その連携協力によってウェブサイト「あいちの学校連携ネット」を立ち上げ、高校生向けに大学情報提供を開始するとともに、大学生による学校現場での学習支援、高校生の大学講義体験といった事業を始めており、本学もこれに参画している。更に高等学校との高大連携事業として、様々な高校の要望に応じて講師派遣等を実施している。

⑥ 愛知県教育委員会との包括連携

2023年3月に愛知県教育委員会との包括連携協力に関する協定を締結した。地域教育推進センター（CREC）では、愛知県教育委員会からの要請を受けて、県教委主催の事業「知の探究講座」（令和6年度あいちSTEAM教育推進講座）に参加し、「リベラルアーツと世界ー現代を生き抜くための共感力、想像力、表現力ー」と題するプログラムを提供した。本学提供の講座には、県教委によって選抜された30名の高校生が出席した。また、教員を対象とする「探究活動スタートアップ研修会」を2023年度に引き続き開催し、CRECの取り組みを通じて、リベラルアーツ教育の推進、探究的な学びにおける連携、高等学校教員の資質向上に向けて取組んできた。

⑦ その他連携

2018年3月、日本舞踊西川流四世家元（西川千雅氏）と、インターンシップ及び講義の実施に関する協定を締結した。この連携により、留学生及び学生対象の授業（「ジャパニスタディーズ902（特殊講義）」）において、同家元から日本の伝統文化の基礎や伝統芸能を直接学ぶことができる貴重な機会を得ている。

以上